
爆弾処理班

カトラス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

爆弾処理班

【Nコード】

N9226B

【作者名】

カトラス

【あらすじ】

少し未来の話。首相は悩んでいました、隣国が高性能の兵器を開発したとスパイから聞かされて、国民からは、やられる前にやっつけてしまえと煽られて……

(前書き)

これは、あくまで、サイエンス・フィクションです
日本と某国のことでは、ありません(笑)

今から少し未来の話。

首相は頭を抱えて悩んでいた。

「一体、私はどうすればいいんだ」

首相の悩みとは、最近隣国が小型高性能核爆弾を製造したとスパイが報告してきたからだだった。

極秘裏の内容だったが、なぜか情報が漏れてしまい、自国民の知る旨となってしまうたのだった。

国民の多くは、そんな危険な兵器をもってるのだったら、やられる前に、やってしまえ、それ先制攻撃だ。と首相をまくしたてた。

しかし、あくまでスパイの情報で、本当かどうかの確証がとれない。

どうするか、先制攻撃するべきか しないべきか

そこに、防衛大臣が現れ、首相に耳打ちした。

「ほお、それはいいな、早速準備にとりかかってくれ」そう、首相は言って、満足そうな顔をした。

けたたましい轟音を発して、ミサイルが隣国にむけて発射された。

ミサイルは、どんどんスピードと高度をあげて、

隣国の首都めがけて飛んでいった。

ミサイルの内部には、高性能カメラが取り付けられていて、状態がつぶさに分かる。ちょうどミサイルは、大気圏を飛んでいるところだ。

そうして、いよいよミサイルが、隣国の街なみを映し出した。

ミサイルが隣国の地面に突き刺さった。

しかし、爆発はおこらない。

そのかわり、ミサイルからは隣国の言葉で、二十四時間以内にミサイルを解体しろ。

そうしないと、この街は一瞬のうちに消滅されるだろうと、音声
が流れた。

隣国の將軍は、どうしたものかと考えた。

恐らくミサイルを撃ってきた国は想像できる。

將軍はいまましい奴らめと思ったが。今は時間がない。

そうして、將軍は爆弾処理班をミサイル解体にあたらせた。

緊急招集された、爆弾処理班はミサイルの信管をはずすため、
持てる技術の全てをかけて、ミサイル解体にはげんだ。

しかし、ミサイルの方もかなりの技術がつまってるようで、なか
なか、解体できない。

そうして爆弾処理班が四苦八苦しているうちに、どんどん爆発ま
での時間がせまってきた。

残り三十分になったとき、爆弾処理班から、歓喜の音が聞こえた。
ようやく、ミサイルの信管がとりはずされた瞬間だった。

その様子を、ずっとミサイルのカメラで観察していた首相がつぶ
やいた。

「やはりなあ、隣国の奴ら、あれほどまでの技術をもっていたのか！
これは、放っておくわけにはいかない。証拠もそろった」

そう、言うとう首相は防衛大臣に命令した。

「ただちに、隣国に向かって、ミサイルを打ち込めえ！

今度は本物の核ミサイルをなあ……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9226b/>

爆弾処理班

2010年10月9日00時12分発行